

カタクリの変異いろいろ(2)

櫻井幸枝



写真1

スギ林内の遊歩道を下ってきて、後側からの姿(写真1)を見下ろし、どうもおかしいと気づいて、急斜面をまわりこんで、正面から撮影した(写真2・3)。

まず、花被片が多い。そして茎にも注目しようと思っていたことから目が行ったのだが、茎がかなり太いのである。

写真で見る限り、葉は、特に変わった様子は見られないようだ。

6枚のはずの花被片は11枚、6本のはずの雄しべは見える範囲だけでも9本あり花糸の長短の様子は良くわからない。雌しべは花柱が茎と同様帯化しているようで、本来3つに開くはずの柱頭の形はずいぶんくずれている(写真4)。



写真2 少し花を上に向けて撮影

以前、カタクリのおそらく「帯化」によると考えられる奇形のいくつかの例を報告したが、その後目にしたカタクリの奇形について、この場を借りて報告する。カタクリの花被片の数が1、2枚多い例は結構頻度が高いらしいという情報をうけて、今度は自分の目だと思っていた矢先の出来事だった。花被片11枚が数えられる、つまり正常の2倍近い数の花被をもつ姿のカタクリを見つけた。

場所は長岡市(越路地域)の寺院境内、遊歩道の入り口付近であった。見上げるとスギ林だが、カタクリ周囲にはちょうど木はなく、他の植物もあまりない、比較的急な斜面であった(秋に行ってみた際も、カタクリのあった場所には背の高い草などは無い状態だった)。撮影した際足もとにキクザキイチゲがあったように記憶している。

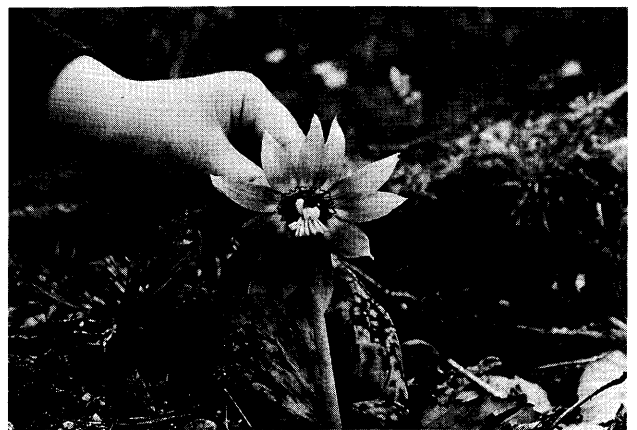


写真3 写真2と同じ個体



写真4 (写真3の拡大)



写真5 一般的な形 (2006年4月撮影)

正面からの画像で柱頭の様子を見ると、上下に大きく割れているのが2本分と、上の左側に一本少し長めに出ているのが3本目だろうか。

残念ながらここで時間切れとなり、この場を後にしたが、今思えば正常な姿のカタクリ (写真5) と並べて撮影すれば分かりやすかったと反省している。

以前報告した中で、弥彦山で見つけた奇形のカタクリもかなり重たげな姿の花だった (写真6)。画像を見ると、手前左寄りの花被片の幅が倍位に広がっているなど、今回の変異とは少し異なったものと考えられる。雄しべは7本確認できる。雌しべはよく写っておらず比較できない。

今回の調査地は、寺の境内・遊歩道入り口で、斜面下には墓地があるなどの条件から、この斜面にほとんど草がないことは、除草剤が使われていることを示すと考えられる。このカタクリの奇形もまた、除草剤による何らかの影響があると推測される。今後も機会を見て、経過観察を行いたいと考えている。



写真6 (参考) 弥彦山で記録した奇形

参考文献

- 「1. カタクリ」 植物生活史図鑑Ⅰ 春の植物 No.1 河野 昭一監修 北海道大学図書刊行会 2004年
- 「カタクリの変異いろいろ」 新潟県植物保護 第45号 新潟県植物保護協会 2009年